

NEWS 連合千葉

台風 15 号の災害における ボランティア活動の記録 《第 2 号》

日本労働組合総連合会
千葉県連合会（連合千葉）
〒260-0013
千葉市中央区中央 4-13-10
千葉県教育会館 新館 6 階
発行人：林田博史
編集人：小山良成
記事提供：川田和広
発行日：2019 年 10 月 9 日

～ボランティア ニュース～

台風 15 号による災害発生から 1 ヶ月が経ち、テレビ報道などは、めっきり少なくなった感があります。しかし、南房総地域ではブルーシートが張られた家々が続き、元の生活に戻れる日を待ち望んでいる人たちがたくさんいます。

連合千葉は、千葉県災害ボランティアセンター連絡会と連携し、被災地支援を続けます。

10月3日（木）＜館山市＞

館山市ボランティアセンターへ「駆け付けボランティア」として入りました。

活動内容は「高齢の女性からの依頼で『物置小屋が風で崩れてしまった。解体処分と廃材置き場まで搬出をお願いしたい』とのこと。連合千葉として参加の 5 名と、一般参加の男性 1 名の計 6 名でチーム編成し活動しました。

約 5 時間の作業となりましたが、誰も怪我することなく完遂することができました。

依頼主からは「どうしようと途方に暮れていた。皆さんには感謝しかない。本当にありがとうございました」との言葉があり、心地よい疲れを覚えながら帰路に着きました。



左上：館山市ボランティアセンターでの受付の様子

左下：物置小屋の撤去作業

右：連合千葉から参加者 5 名

向かって左から「渡邊郁哉さん（千教組）」「笹岡英男さん（基幹労連）」「野田泰造さん（電機連合）」
「内田雄大さん（フード連合）」「川田副事務局長」

10/3(木)・10/6(日)

活動の記録

10月6日(日) <鋸南町>

鋸南町ボランティアセンターへ「駆け付けボランティア」として8名で入りました。

午前中は、ボランティアセンターで軽トラックを借り、被災宅から畳やタンス・棚といった大型廃棄物の撤去と、瓦の破片や物干しなどをゴミ集積所へ搬出する作業を行いました。

午後からは、4名ずつの2チームに分かれ、カーネーションを育てているガラスハウスへ行き、台風で割れてしまったガラスの破片の後片付けを行いました。高所での支援作業となったため、とにかく安全第一を心掛けました。生産者の方からは「一人では何日かかるか分からないところだった。本当にありがとうございました」との言葉がありました。綺麗なカーネーションが一日でも早く店頭にならぶことを期待したいと思います。



上：ガラスハウスでの破片撤去作業の様子

下：連合千葉から参加者8名

向かって左2列目「北山智康さん(千教組)」 「中島副事務局長」 「大嶋 貴さん(JP労組)」 「川田副事務局長」
1列目左から「鶴島規晃さん(千教組)」 「古川陽平さん(千教組)」 「久米村 歩さん(千葉市教組)」 「宮村健一さん(千葉市教組)」

<報道されない真実>

自衛隊の支援の様子がマスコミで取り上げられる一方で、停電直後から約16,000人が復旧作業に駆けつけてくれた電力総連の仲間の活動は、ほとんど報道されなかった。実際の復旧作業は、自衛隊と一緒に活動していたにもかかわらず…。

でも、私たちは忘れない。木更津のイオンモールの駐車場などに停められた何百台もの作業車と、テントや車中で寝泊まりしながら復旧に努めてくれた仲間の姿を！

